

## 2020年度 佐久長聖高等学校 自己評価

学校教育目標	中・長期的目標	今年度の重点目標
1. 礼節を重んじ、忍耐強く、誠実な人材の育成を図る。 2. 一人ひとりの個性を尊重し、授業・クラブ活動・館(寮)生活を通して豊かな教養・感性・心身の健康を身につける。	1. 積極的、自主的な態度を養う。 2. 一人ひとりが文武両道を実現できる環境を整える。 3. 校外から理解・支援される教育活動を展開する。 4. 世界で活躍できる人材が育つ環境を整える。	1. 魅力ある授業が生徒に提供できるための教科指導の研鑽に努める。 2. 生徒の進路実現に向けて、進路指導体制の発展に努める。 3. 生徒との前向きな対話のある生活指導・学級運営を行う。 4. 心身ともに健康で明るい学校生活をが送れるよう、生徒の人権を尊重し安心安全な学校づくりを進める。 5. 学校の特色をアピールできるように積極的に情報発信を行う。

評価・・・A:十分 B:概ね十分 C:やや不十分 D:不十分

評価項目	評価の観点	評価	具体的取組状況・成果	課題・問題点
1	学習指導			
	大学入試改革に対応した具体的な取り組みができたか。	B	総合型、学校推薦型の提出書類や面接内容等にも変更が見られたが、それを利用して多くの生徒が進路を確定することができた。／共通テストに変わり、出題傾向にも大きな変化が見られ、その傾向をつかむために問題を分析した。また、各予備校の問題分析もつかみ、生徒にもそれを可能な限り伝えた。	新課程では図表の読み取りや、長い説明文を読み内容を理解するということがより必要になる。／過去の事例が少なく、演習数は不十分であった。／共通テスト初年度ということでは入試改革の方針や内容が変更になるなど不安要素がたくさんあり情報が錯綜するなど振り回された感が強かった。
	アクティブラーニング(AL)・ICT機器活用等の授業改善をしたか。	C	アクティブラーニング型の授業を取り入れ、生徒の授業アンケートの評価はよい。／授業中の定期的な操作の確認、授業プリントのPDF化や生徒への配信など、万一のために一通りのことができるようにしてある。／いつでも復習ができるようにプリントはロイロに入れている。	生徒のWi-Fi環境やPCの操作スキルがまちまちで、一律の授業が難しい。／Googleスライドの授業は準備に時間がかかり、仕事の効率化ができていない。／生徒の授業アンケートの評価は良いが、力がついているかはわからないのが現状。／24時間生徒とつながっている状態があり、少し心に余裕がなくなりました。
	中高一貫教育の特性を生かした指導や教育課程の見直しを行ったか。	B	中学で誰がどのような指導をしていたか、それらが定着しているかを発問・課題提出等で把握し、教材の精選を行った。／先取り学習を活かした授業を進めることができた。／中学1年の時から一貫して教えられたことは良かった。単に点数の取り方を教えるのではなく、幅広い教養を身につけた人材をこれからも育てたい。	中高職員の意見交流の場をもっと設け、連携を強化するべきである。／中学段階でやる気を喪失している生徒のやる気をいかに引き出すか。／中学で習ったはずの内容が定着していないため、結果的に二度手間になっている。／学年による学力の差が大きいため、学年任せにならないある程度統一的な指導が必要。
2	進路指導			
	計画的・戦略的に組織的な進路指導ができたか。	B	自分のクラスのことでなく経験が浅かったり、学力差のあるクラスを受け持つ担任も巻き込みながら、おおむね一律の指導が進められた。／3年生の進路に対して、様々な入試方法がある中、下級生の時から進路面談をくり返し、それぞれの生徒に対して対応できた。／部活顧問と担任間で連携を取って進路指導できた。	類・コースによるスケジュールがまちまちで、週末を中心に模試・ゼミ等足並みが揃わないところがあり、類をまたがった有効な指導を広げていきたい。／今までの経験に加えて、新しい情報に関して、職員間で共有しないといけないと思いました。／将来の夢や目標がない生徒たちのためにもっと幅広いアプローチ法を考える必要がある。
	保護者と連携した個に応じた進路指導ができたか。	B	三者懇談やClassiのグループを通して、保護者に学校の様子を細かく伝えたり連絡を取り合うことで、保護者との連携を密にできた。／親御さんの希望もあるが、本人と親御さんがしっかりと相談するようにして、最終的に本人の希望通りの進路となった。／休み時間、清掃時間等を利用して、雑談の中で家族の様子を耳にし指導に生かした。	教員側の保護者対応のスキルアップを図る必要がある。／生徒と保護者の希望進路が違ったり、家庭内で話し合いができていない場合の対応。／生徒の様子や家庭環境などが多様化しており、それぞれに対応するのが担任だけだと大変である。／
	生徒の自己啓発につながるキャリア教育であったか。	B	学年で取り組んだSDGsを通して身の回りの問題に気付き、希望進路や就きたい職業に変化が起きた生徒もおり、志望理由書等の進路研究にうまく接続できた。／希望進路に応じて、生徒が関連する事業所を訪問して取材する機会を設けた。／推薦入試指導を丁寧に行うことにて、生徒が自分の将来を深く考える機会をつくることができた。	コロナの影響で大学の出前講義などがなくなり、医療体験などへの参加の促しも躊躇われた。オンラインなどを使用したセミナーを開催していかなければならない。／考えているうちになぜ勉強しているのかわからなくなってしまい、学習意欲を失ってしまった生徒がいた。／SDGsは生徒によって参加する意欲や態度に差が出てしまっていた。
3	生徒指導			
	いじめや暴力のない安全な学校生活を送るための啓発活動ができたか。	B	生徒指導からの生活実態アンケート等を活用し、早期対応・早期解決を実践できた。／問題があれば担任だけに押し付けず、関わるように心掛けた。／様々な事例を用いて生徒に伝えたり、DVDや本などの一部を使って、そのことの大切さを説いてきた。／入学時の各中学校の文化の違いによる衝突を減らすため、事前に予防線を張った。	学校内では見えないSNSなどでの悪口や誹謗中傷に苦しんでいる生徒がいる可能性がある。そうしたところまで目を届かせていく必要がある。／この手の対策は「十分だ」と思った時点で不十分になると思うので、十分だと思っていけないことだと思う。／担任が自分で抱え込んで対応が遅れるなどの温度差がないようにする。
	体罰や暴言のない安心な学校づくりができたか。	A	生徒を一人前の人間として大切にすることを心掛けた。／叱るときも落ち着いて説諭した。／信頼関係があつての指導だと思っている。生徒がいなければ指導はできない。その部分に関して常に感謝の気持ちをもって指導している。／問題点+改善点のセットでの指導を心がけることができた。	教師による体罰・暴言がないかどうか、生徒たちにアンケートを取ってみる必要があると思う。／授業中、度が過ぎた注意はあったことは事実。注意の仕方は自戒した。／クレームに怯えて、すべき指導がなされないようにしなければいけない。／生徒に関する職員間の情報共有をきちんとする。
	校内外での安全・トラブル(SNS含む)に注意できているか。	B	トラブル等を発見した場合にすぐに対応する準備ができています。／情報の授業でSNSを含めた情報モラルなど実施している。／公共の場所における振る舞いに関しては繰り返し話をしよう意識しており大きなトラブルはなかった。／SNSに関しては生徒の方が知識と技術があるので、自分も色々勉強して先回り指導ができるよう意識した。	職員の共通見解。ルールというよりもマナーの問題として扱うべき。／休み時間の携帯の使用についての指導がもう少し必要。／教員がいくら注意しても気づけないことが多い。／生徒が教師に相談できる環境づくりが大切。／下校時の交通安全指導。冬場、暗くなるのが早く、黒っぽい服装なので車から見えにくい。
4	保護者連携 地域連携			
	ホームページ・Classiなどで積極的に学校情報の発信ができたか。	B	2学期後半の繁忙期を除き1～2週間に1回は情報発信するよう努めた。／3年間、多くの保護者の理解が得られてきた。／googleclassroomにおいて、クラスのサイトを作成し、その作成に生徒を関わらせるなど、発信を行いつつ、教育に活かすこともできた。／部署で行ったイベント、企画の紹介などをホームページで行うことができた。	特にホームページは受験生が必ず見ると思うので、もっと身近な日常の出来事や先生や生徒の紹介など学校の様子などを発信するべき。／言葉をどのように選ぶのか。伝え方のスキルアップ。／他クラスの取り組みなどの情報共有を増やす。／Classiを見ていないと思われる保護者が相対数多いこと。
	保護者や外部からの声に対してきちんと対応・返答できたか。	B	保護者の要望などに対して真摯に向き合い、誠実に素早く対応することができた。／保護者のこどものことを心配する親の気持ちを和らげる事ができたりなど、適切な対応ができた。／場合によっては複数の教員で対応することで、チームとして対応できた。／保護者の話を納得いくまで話を聞く中で、お互いに理解しあうことができた。	担任だけで対処できない案件の増加。／家族の問題にどこまで踏み込んで良いか迷うことがある。／相手の置かれている状況をよく理解することが大切である。／周りの先生方と情報を共有し、組織的に対処していく。／学校にとってプラスの意味合いでの要望をしてもらえるように普段から取り組めると、学校がもっと良くなるように感じた。
	説明会・オープンスクール(OS)・学校訪問など積極的な広報活動ができたか。	B	オープンスクールでは訪れた親子に積極的に話しかけ学校の良さをアピールすることができた。／部活動を通じて中学校の先生や保護者と関係を築けた。／常に毎日、なんどきも広報のつもりで本校の宣伝に努めた。／コロナのせいで色々制限がかかってしまったが、オンライン授業という新たな形を見せることができた。	学校オリジナルの記念グッズ。文具などの記念グッズは塾や中学校でほかの中学生の目につくこともあり、広告効果が高いと思われる。／体験授業に参加して、「こういう授業をやっているなら長聖に決める」と思ってもらえるくらいまで、さらに授業の質を高める。／職員個々が生徒募集を意識した行動を取るべき。